

## 豚の投薬早期隔離離乳による清浄化技術

S P Fに代わる豚の清浄化法として、投薬早期隔離離乳（M E W）の5日齢離乳の実施により、特定伝染性疾病がほぼ清浄化され、S P Fと同等の効果がある。また、豚の衛生状態が良くなり発育成績も向上した。このことから、M E Wは疾病の清浄化に有効であることの指標を得た。

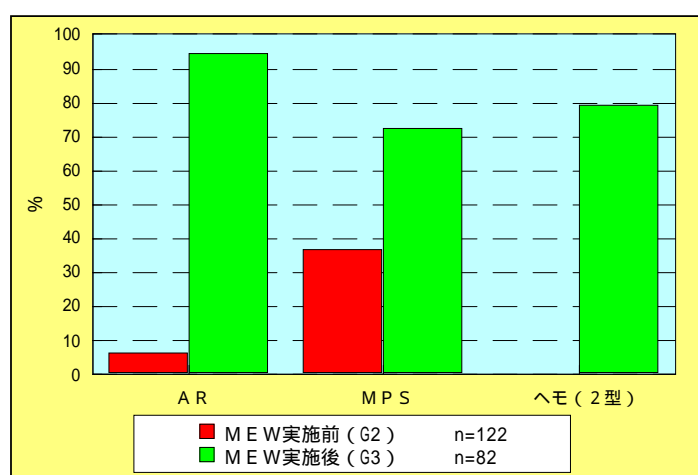


図1 M E W実施前後の抗体陰性割合

母豚から子豚への疾病の垂直感染を防ぐため、早期離乳（5日齢）を行った。M E Wの実施により、代表的な慢性疾病であるA R（豚伝染性萎縮鼻炎）、M P S（マイコプラズマ性肺炎）、ヘモフィルス肺炎について、抗体陰性の割合が改善され清浄化が図られた。

|       | 体重 (Kg) |      |      | 人工ほ育中<br>事故率 (%) | 1日平均<br>増体重 (g)<br>(D G) |
|-------|---------|------|------|------------------|--------------------------|
|       | 生時      | 2週   | 4週   |                  |                          |
| 慣行法   | 1.35    | 4.35 | 7.90 | -                | 928                      |
| M E W | 1.40    | 3.40 | 9.00 | 2.1              | 990                      |

表1 M E W実施前後での発育変化

M E W実施後の豚の発育は、人工ほ育の影響で2週齢体重において慣行法を下回るが、4週齢には慣行法を上回り、D Gは約7%程度改善された。また、人工ほ育中の事故率は2.1%と低い。

| 作業内容     | 人工ほ育器<br>の洗浄消毒 | 人工乳の<br>調整給与 | ほ育室の<br>洗浄消毒 | 子豚の<br>餌付け | 合計  |
|----------|----------------|--------------|--------------|------------|-----|
| 作業時間 (分) | 2.5            | 0.9          | 0.5          | 1.2        | 5.1 |

表2 人工ほ育に要する労働時間（子豚1頭当たり）

5日離乳で人工ほ育を行う場合、子豚1頭当たり5.1分/日の労働力が増加し、うち約50%が人工ほ育器の洗浄消毒に係る労働力である。

|       | 代用乳   | 人工乳   | 母豚分 | 抗生剤 | 合計    |
|-------|-------|-------|-----|-----|-------|
| 慣行法   | -     | 1,438 | 875 | -   | 2,313 |
| M E W | 1,693 | 1,873 | 381 | 390 | 4,337 |

表3 M E Wに要する経費（子豚1頭当たり） 単位:円

M E Wに要する経費は、子豚1頭当たり4,337円と試算され、慣行法の約1.9倍である。